

△4月8日(水)開催 準例会
岳連の森づくり/コバノミツバツツジ観察
「森づくりの回想とコロナ終息への願い」
布引支部 吉野 宏(兵岳連副理事)

令和2年の年が明け、正月気分もやっと抜けた1月中旬、日本におけるコロナウイルス感染者第1号が発表された。それからすでに3ヶ月を経過しようとしているが、感染は衰えるどころかその勢いはすさまじく、兵庫県でも3月1日に初めての感染者が確認されてからわずか38日間で231人が感染している。そんな訳で兵庫県にも「緊急事態宣言」が発令された。

当会は3月1日に行うべし、令和2年度定時総会の中止を2月24日に発令。それ以降5月末までの計画していたすべての行事(森づくりをのぞく)を中止又は延期としているが、只、岳連の森づくり行事だけは場所の広さや参加者の数から判断し決行することにした。



ミツバツツジ咲く森への道にて

思えば、岳連の森づくりを始めてかれこれ11年の歳月が流れた。前々の兵岳連自然保護委員長であられた今は亡き高橋敬三氏が、普及委員会所属の私に突然「吉野さん、近場に山の隠れ場?としてうってつけのええ場所があるねん!見に行きましょか?」と誘われたのが平成21年の晩秋であった。場所は東灘区岡本・十文字山のすぐ下で、標高280m地点一帯の広大な雑木林でした。

～そもそも高橋さんとは変な?ご縁(・・)と言っても、六甲山中のあらゆる場所で、突

然イノシシに出会うがごとくしばしば出くわしていた仲!・・それもそのハズ!彼は神戸市建設局森林整備事務所の所長でいらっかった方であった!)で、平成18年に行われた兵庫国体のお手伝いをしたのがきっかけで、当時の中島岳連会長や古賀理事長に声を掛けられ、いつの間にか二人とも兵岳連の運営の一端を担うことになったのであった。～



開墾前はニセアカシアとネザサの荒地

「敬三さん、こんな荒れた雑木林の何処がええのん?開墾せなテントも張られへんやん!・・」

～六甲山地の南斜面は非常に急峻で崩れやすい地質であり、災害防止のために、森林を育て砂防施設を整備する。その一つの手段として六甲砂防事務所が呼びかけた「みんなの森づくり事業」に山岳連盟として参加しましょうよ!将来子供たちがこの場所で遊んだり、また遊んだ思い出をふるさとの森として心に刻むことが六甲の緑を保全する最大の力になるんです!!」・・と。～



森の世話人/兵庫県山岳連盟の看板

うまく口車、いや先に目車に乗せ、その後で口車に乗せる!・・森づくりなんか全く関心の無い私の心の中を見抜いた彼の作戦は、

「よっしゃ！やりましょか！！」と返答した後で気付かされたのでした。・・・



明るく素晴らしい森に変身した「岳連の森」！

開墾当初は、繁殖力が強く、しかも萌芽力が極めて高いニセアカシアとの戦いでした。切っても切ってもすぐに芽を出し、見る間に伸びるこの木の伐採は困難を極めました。一体何十本の木を伐採したでしょうか？そして又、6月～7月の作業は刈っても刈ってもすぐ伸びるネザサ群との戦いでした！ぬぐってもぬぐっても汗が滴り、熱中症寸前になったりもしました。夏の作業は思い出してもウンザリしますね！・・・



植樹した木々が成長する岳連の森

毎年、毎年、季節、季節、同じ作業の繰り返しですが、「森づくりとはそんなものですよ！」と言った森林プロフェッショナル・高橋敬三さんの言葉が忘れられません。12年目に入った岳連の森は、「子供たちが遊んだり思い出の残る森として喜んでくれるような森に見事変身していますよ！敬三さん！」

・・・え～！「雲の上からいつも見てお

る！」って！・・・恐れ入ります！！



作業中のヒヨコ会員参加者

～ 追記 ～

コロナウイルスは、永年に於いて大気汚染を積み重ねてきた地球人に対して懲らしめの為にやって来た宇宙からの刺客であると考えます。大気汚染によってもたらす地球温暖化は最たるもので、その為に地球のいたるところで大地震や大津波、又、大洪水等の災害が年々増え、しかも大きな被害をもたらしています。

宇宙では地球の温暖化だけにとどまらず、あらゆる星にまで大気汚染が浸透していると考えます。

今は世界中の全ての人々が、ひたすら宇宙にお詫びをし、早急に宇宙の大気汚染を食い止める手立て、地球温暖化を阻止する手立てに全力を注がねば、宇宙は、自然は、決して人類を許してくれないよ！・・・と思うのです。

皆様、地球温暖化阻止にご協力を！！

それはさておき、くれぐれもご自愛の程を。

（天国の敬三さんのつぶや

き）



森づくりには多くのヒヨコレディが参加

天 候 晴れ

参加者 15名